

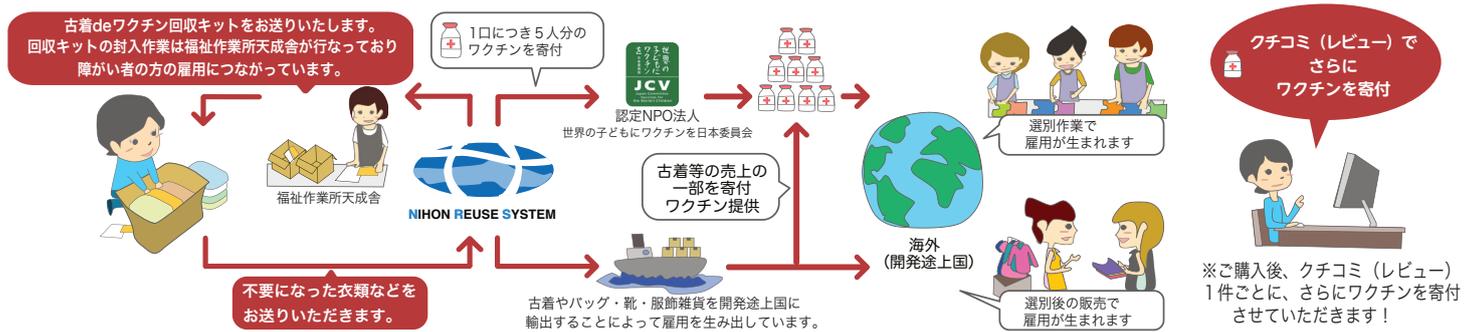
連載：出張！ ホリプロ保育園



「ホリプロ保育園」えんちょーこと、安田美香です。前回は大掃除の季節に我が家で大活躍している、子ども服のリユースサービスをレポートしました（関連記事「不要子ども服を譲り合うサービスが人気 社会貢献も」）。今回は古着を使って開発途上国の子どもたちを支援できるサービスを紹介します。

サービスはその名も「古着 de ワクチン」。使わなくなった中古の衣類やバッグ、靴や服飾雑貨などを送ると、アフリカや中東、東南アジアなどの開発途上国で販売され、再利用されます。買い取りサービスとは異なり、不用品を送る側が利用料として 3000 円を負担します。ですが、不用品を引き取ってもらったうえ、1 回の発送につき 5 人分のポリオワクチンを開発途上国の子どもたちに寄付できるという仕組みが好評で、子どもを持つママの間で利用者を増やしています。

ワクチンはこんな風に届けられ雇用も生まれます！



古着 de ワクチンのサービスの仕組み（日本リユースシステム提供）



サービスを利用する際は、まず古着 de ワクチンのサイトを通して回収用のキットを購入します。これまでは利用者自身が段ボール箱を用意して発送していましたが、「大きな段ボール箱を調達するのが難しい」という声があったことから、2017年12月に専用紙袋の送付を始めたとのこと。

紙袋のサイズは 50x50x75cm です。代金引換で利用する場合は別途送料と手数料がかかります



送ることができるのは子ども服だけでなく、大人の衣類やバッグ、靴、帽子、アクセサリ、ネクタイなど、全 13 品目。未使用であればタオルやシーツなどの寝具も引き取ってくれます。一般的なリユースサービスでは受け付けてもらえない靴が含まれていることには驚きました。ただし、下着や靴下、タイツは対象外。ほかにも、シミや汚れ、破損のひどいものは送ることができません。ただし、記名などはそのまま OK。アイロンテープで消したりする手間が省けるのが助かります。商品を詰める紙袋には薄手の服なら約 100 枚が入るとのこと。かなり強度があり、少々のことでは破けないそうです。これまでのように段ボール箱での送付も可能です（3 辺の合計が 160cm 以下）。

リサイクルショップだと不用品を引き取ってもらえなかったり、売れても二束三文にしかならなかったり。手間ばかりかかって疲れてしまいますが、古着 de ワクチンは引き取る商品の幅広さが最大の魅力だと感じました。大量の不用品を一度に送ることができるので、家の中がかなり片付きます。服を捨てるのはしのびないものですが、誰かに大切にってもらえるとうれしいですし、開発途上国の子どもたちにポリオワクチンが届けられるという喜びを感じることができます。

着物やユニフォーム、作業着なども送ることができます。上下バラバラのスーツも OK とのこと

古着がワクチンに変身 障害者や途上国の雇用促進も

発送作業で障害者の雇用促進も

古着 de ワクチンはどのような経緯で誕生したのでしょうか。サービスを運営する日本リユースシステムの今野優子氏にお話を伺いました。

今野氏によると、同社はもともとリユース品・リサイクル品の輸出を行っており、「日本で捨てられている衣類のうち、9 割以上がまだ着られる良質なもの。海外では再利用できる」と感じていたとのこと。そこで、どうすれば利用可能なものを捨てない仕組みが作れるかを考え、放置自転車を引き取るビジネスを始めたそうです。同じように家庭からも大量に捨てられる衣類などを捨てさせない仕組みとして誕生したのが、古着 de ワクチンでした。まだ着られる服や思い入れのある服を捨てるのではなく、気持ち良くリサイクルしてもらいたいと考えたそうです。

サービスがスタートしたのは 7 年ほど前。日本リユースシステム、リクルートマーケティングパートナーズと認定 NPO 法人「世界の子どものワクチンを日本委員会」が協同企画し、事業を運営してきました。これまでのワクチン寄付人数の合計は 149 万 2155 人。衣類総輸出数は約 1284 万 9550 着（2017 年 12 月現在）。利用者の中心は 30～50 代の女性で、累計 24 万人以上が利用しているそうです。

サービス開始当初の 2010 年はリクルートライフスタイルの通販サービスで取り扱っていましたが、そのサービスが終了。そのため、2013 年からはリクルートの赤ちゃん&妊婦向け通販サイト「赤すぐ net」に引き継ぎました。しかし、2017 年 9 月 15 日に赤すぐ net の通販事業が終了が決まったことで、古着 de ワクチンのサービスも終了することに。ですが、販売終了を知った多くの人から「サービスを継続してほしい」といった声上がり、9 月 16 日から日本リユースシステムの公式サイトで直接販売することになったそうです（企画は引き続き、リクルートマーケティングパートナーズ、認定 NPO 法人「世界の子どものワクチンを日本委員会」と共同で行っています）。公式サイトでのサービス提供に切り替えた際に、宅配クリーニングを行う企業など、古着 de ワクチン同様に片付けに関連性のある企業 3 社と協業し、相互送客やクーポンの配布などを始めたとのこと。

さらに、今回のリニューアルのタイミングから回収キットの封入作業を福祉作業施設に依頼。古着 de ワクチンが障害者の雇用にもつながるようになりました。

連載：出張！ ホリプロ保育園



東京都国立市にある福祉作業所「天成舎」で作業の様子（日本リユースシステム提供）

また、引き取った衣類などは国内で簡単に選別された後、国外でさらに170種類以上に選別し、カンボジア、ミャンマー、ラオス、タイなど各国に送って販売しているとのこと。日本の製品は品質が良いので、ユーズド品でも非常に人気があるそう。衣類を海外に寄付しているのではなく、輸出販売することによって、現地で新しい雇用が生まれます。寄付ではなく、「売り物」として活用することで、ビジネスとして長期的に運営でき、結果的に支援につながると考えているそうです。今野氏は「寄付は一時的な支援にはなるが、雇用を生み出すことはできない。慈善事業ではなく、ビジネスとしてこのサービスを提供し続けたい」と話します。



カンボジアの店舗。制服を着ているのは現地の販売員です（日本リユースシステム提供）

利用によってワクチンの寄付や障害者の雇用促進、開発途上国での雇用創生ができる古着 de ワクチン。これらのストーリーを知ることによって「いつもは捨てていた衣類を、このサービスを使って活用してもらいたい」と考える人は多いのではないのでしょうか。

 **安田 美香**

ホリプロのアナウンス部に所属。立教大学文学部卒業。日本大学大学院芸術学研究科にて、芸術学修士号取得。小学1年生の男の子と保育園年少の女の子の子育て中。1人目を出産後、“子育ての孤独”を感じた経験から「ホリプロ保育園」えんちょー、「3・3 産後サポートプロジェクト」発起人などをつとめ、子育ての声を集め発信している。Jリーグ中継リポーター、TBSラジオ「伊集院光とらじおと」（水曜アシスタント）などに出演中。

●ホリプロ保育園オフィシャルブログ <http://lineblog.me/yasudamika/>

●安田美香オフィシャルブログ <http://ameblo.jp/xanadu09/>